

さくら小学校教育目標

ふるさとを愛し 自ら学び 心豊かにたくましく生きる子どもの育成
 ～広げよう 元気なあいさつ 明るい笑顔～

めざす子ども像

- ふるさとを愛し、進んで奉仕する子ども
- 自分で考え、判断、表現できる子ども（知）
- 思いやりがあり、力を合わせる子ども（徳）
- 強い心を持ち、体をきたえる子ども（体）

体育科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える能力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。



子どもの実態(○強味 ▲弱み)

- 素直で穏やかである。
 (人の話や指示を聞く、友達のがんばりを認める、進んで準備や片付けをする、ルールを守る)
- 男女に関わらず、学年を越えて仲がよい。
- 進んで外で遊ぶなど、体を動かすことが好きな児童が多い。
- ▲自分で考え、進んで行動する力が弱い。
 (指示を待つ、自分の考えを表出しない、すぐ誰かに聞く、周りに流される)
- ▲向上心が弱い。(苦手なことにチャレンジしない、失敗をおそれる、すぐにあきらめる)
- ▲基礎体力(筋力、走力、持久力、瞬発力等)・基礎感覚(逆さ、腕支持、回転、平衡)・体幹が弱い。



めざす子ども像

- ・自己課題をもち、目標に向かって工夫や努力をし、解決する子ども
- ・嫌なこと、苦手なことにもチャレンジし、自分の力でやり遂げようとする子ども
- ・自分の考え(やりたいこと、困っていること、ポイント、アドバイス)を伝え、友だちと対話しながら高め合う子ども



研究目標

自分の課題や目標に向かって生き生きと取組み、
 対話を通して高め合うことができる体育科の授業づくりの在り方を究明する。



さくら小 研究主題

自分の課題を見付け、対話を通して高め合おうとする子どもの育成
 ～「やってみたい」「できそう」「できた」が連続する体育学習～



研究の視点・内容

1 どの子どもも生き生きと参加できる、系統性を大切にした運動教材の工夫

(1)運動教材に向かうための基礎感覚作り, 基礎技能の定着, 生活習慣・運動習慣作り, 態度の育成

①低学年のうちに基礎感覚・基礎技能を身に付けさせる。→「できそう」な体にしておく。

- ・逆さ感覚, 回転感覚, 平衡感覚, 腕支持感覚, 高さ感覚, 振りの感覚などの基礎感覚

<ボールゲーム>

- ・ボール操作の技能…ボールを転がす, 投げる, 蹴る, 的に当てる, 捕る
- ・ボールを持たないときの動き…ボールが飛んだり, 転がったりしてくるコースへの移動, ボールを操作できる位置への移動

<鬼遊び>

- ・空いている場所を見つけて, はやく走ったり, 急に曲がったり, 身をかわしたりする
- ・相手(鬼)のいない場所への移動, 駆け込み
- ・少人数で連携して相手(鬼)をかわしたり, 走り抜けたりする
- ・投げる相手を追いかけてタッチしたり, マーク(タグやフラッグ)を取ったりする

②帯活動, 組み合わせ単元を工夫する。・・・細く, 長く, 移動などの動線に無理がなく

別表1

- ・子どもの集中力, 運動意欲の持続, 運動頻度の保証, 動きの定着
- ・技能の習得に回数や時間が必要な運動は帯で

動きや体力は, 長い時間をかけて身に付いたり高まったりする(短期間のうちに高めた体力はすぐに落ちてしまいがち)

③互いのよさや違いを認めたり, 勝敗を受け入れたりする態度を育成する。

- ・負けたことをむだにしない指導 → 負けた時にどうするか, 何で勝つのか?
得意なことで勝てればよい, がんばれることを探させる
- ・「だんだんタイム」の充実

④「さわやか調べ」「元気アップ体操」「ロードレース大会」「なわとび大会」「健康委員会の取組」など

(2)小学校6年間を見通した系統性(学習内容や育てるべき力)の明確化, 単元配列, 単元構成 別表1,2

①6年生のゴール型ゲーム(セストボール3対3)の姿をゴールとし, それに向けて系統的に動きや力を身に付けさせる。

- 3対3は, パフォーマンスを上げる最小単位である。
- 3人の役割がはっきりし, 思考・判断することを絞ることができる。
- ボール操作の機会を保障しながら技能を高めることができる。
- 自分が関わったことで成功したという達成感を味わわせることができる。

②「ネット型」のゲームの利点を生かし, 低学年からネット型のゲームを系統的に行う。

【「ネット型」のゲームの利点】

- 空間が限定(相手と分離)された安全な状態
- 自在にボール操作できる
- キャッチ技能を高めることができる
- 役割分担, 順序性がわかりやすい
- フリーの人を見つけやすい
- 作戦を実行, 推敲しやすい
- 課題が分かりやすい → 相手のいない所に落とせばいい

③各学年において, 「ネット型」で身に付けた力を「ゴール型」で生かせるようにする。

④一単元の中で易しいことから難しいことへ移行し, 苦手な子どもが参加しやすくなるようにする。

- ・ゴロ → バウンド → ボレー
- ・手(キャッチ, ヒット) → 用具(ヒット) → 足
- ・ボールつなぎ(ラリー) → ボール落とし(いじわる)
- ・攻守交替(一方向) → 攻守交替(双方向) → 攻防入り乱れ

(3)全員参加のためのルール, 制限の工夫

①同点, 高得点のせったゲームになるようにする。

②時間や空間に制限をつけ, より技能を高める。

2 子どもの思考の流れを大切にしたい授業づくり

(1) なりたい姿のイメージと問題点の顕在化

① 導入でゴールの姿を見せ、なりたい姿のイメージをもてるようにする。

- ・ 児童のゲームの様子蓄積
- ・ 教員による動画撮影

② メインゲームにつながる運動を工夫する。

- ・ ドリルゲームとタスクゲーム

③ 思考したり運動観察したりするポイントを、運動感覚の向上や技能の習得を主軸としたものに絞る。

- ・ 攻撃方法の知識及び技能、思考（攻撃で得点するためにはどうすればよいか）に焦点化
 - ボールを前（相手ゴール）へ運ぶこと
 - 味方がとりやすいパスを出すこと
 - パスがもらえる場所に動くこと
 - 相手の動きを見てずれを作るように動くこと
 - パスカシュートかドライブか
 - どこに動けば、パスはどの子にすればより得点の可能性が高くなるのか
 - スペースを見つける

(2) 課題解決に向かって、対話しながら思考、試行錯誤する場の工夫 別表2

① プレー中やゲームの合間に、短時間の対話が自然に生まれるようにする。（ごにょごにょタイム）

- ・ うまくいったことやできたこと、うまくいかないことの伝え合い
- ・ 聞き手と話し手のチェンジ
- ・ とりあえず、今の数秒でベターを探す
- ・ 周り（ゲームを見ている者）のアドバイス

② 作戦ボード、ICT を活用する。

(3) 解決方法や結果、課題、変容をふり返る場の工夫

① 体育ノートを活用する。

- ・ 学びの蓄積、その単元での学びのふり返り

② 子どもの動きや変容を見取り、価値づけをする。

- ・ 教師の評価言、児童同士の評価言

○ 研究の組織

| | | | |
|--------------------------------------|--|-------------|--|
| 研究推進部(錦織由 塚田 土江) | | | |
| □研究構想, 研究計画, 研究のまとめ | | □実技研修計画, 運営 | |
| □「年間指導計画」「ゲーム・ボール運動系統表」「さくら小の体育」の見直し | | □授業研究会の運営 | |

| 総務部 | 授業づくり部 | 基盤づくり部 | 環境づくり部 |
|--|--|---|---|
| 校長(梶谷)教頭(高橋兼) 事務(高橋廉) | ◎錦織由 塚田 土江 | ◎錦織都 三島 大菅 原 | ◎福田 岡 森山 萬代 |
| □外部(県小体連, 市小体連, 指導・助言者, 領域主任)との交渉 □備品, 研究図書 of 注文 □訪問指導指導案発送 □動画の撮影, 編集, DVD 作成 | □単元計画表の見直し □体育館の整備, 整理整頓 □指導案審議 低: 錦織由 土江 福田 三島 錦織都 大菅 高: 塚田 原 岡 森山 萬代 | □話す・聞く力, 対話力の育成に関する研修の実施 □ふり返り, 教師・児童の評価言に関する研修の実施 | □基本的な生活習慣づくりのための取組 □体力づくり, 運動習慣づくりのための取組 □校内の美化, 掲示 |

○研究計画

| 時期 | | 内容 |
|----------|---|---|
| 前期 | 5月13日(月) | 研究職員会議 ：研究構想，研究組織，研究計画について協議，共通理解，実技研修（ネットボール） |
| | 27日(月) | 研究職員会議 ：指導案審議 3年ネットボール2対2（2段攻撃） 5年ネットボール3対3（3段攻撃） → 発送6月5日(水) |
| | 6月13日(木) | ★清水先生による訪問指導 4校時： <u>3年ネットボール2対2（2段攻撃）</u> 5校時： <u>5年ネットボール3対3（3段攻撃）</u> |
| | 14日(金) | ★示範授業，理論研修，動画分析 6年セストボール・4年ネットボール2対2（3段攻撃）について相談 |
| | 17日～21日 | 研究授業 4年（ ） 6年目研修 |
| | 7月8日(月) | 研究職員会議：各部会① 8月の研修について |
| | 26日(金) | 学校ダンス指導者研修会（カミアリーナ）への参加 |
| | 7月下旬～8月 (夏休み中) | 研究職員会議 実技研修 各部会② 4，6年単元について校内で指導案検討 ネットボールの単元計画見直し 研究構想，ゲーム・ボール運動系統表，年間指導計画見直し（研究推進部） |
| 8月1日(木) | ★清水先生による理論・実技研修 | |
| 2日(金) | 体育指導者研修会（カミアリーナ）への参加 | |
| 9月9日(月) | 研究職員会議 ：指導案審議 6年セストボール3対3 4年ネットボール2対2（3段攻撃）→ 発送10月8日(火) | |
| 後期 | 10月17日(木) | ★清水先生による訪問指導 4校時： <u>6年セストボール3対3</u> 5校時： <u>4年ネットボール2対2（3段攻撃）</u> 6年研兼 |
| | 18日(金) | ★示範授業，動画分析，3年タッチラグビー・5年ハンドボールについて相談 |
| | 25日(金) | ◎中四国小学校体育研究大会愛媛大会視察 |
| | 28日(月) | 研究職員会議 ：愛媛大会視察報告 各部会③ |
| | 11月11日(月) | 研究職員会議 ：指導案審議 2年：ネットボール2対2 |
| | 下旬 | 研究授業 <u>2年：ネットボール2対2</u> |
| | 12月16日(月) | 研究職員会議 ：指導案審議 3年：タッチラグビー 5年：ハンドボール → 発送1月15日(水) |
| | 1月23日(木) | ★清水先生による訪問指導 4校時：3年タッチラグビー 5校時：5年ハンドボール |
| 24日(金) | ★示範授業，理論研修，動画分析 | |
| 1月～2月 | 研究授業 <u>1年：ネットボール1対1</u> | |
| 2月17日(月) | 研究職員会議：各部会④ （今年度のふり返り，R7発表に向けて 研究構想，ゲーム・ボール運動系統表の見直し 単元計画表見直し（授業づくり部） 研究のまとめについて（研究推進部） | |

島根県小体連の研究主題

動いて自覚し 動きの質を高め合う しまねっ子

～なりたい姿のイメージをもち、「できそう」「できた」が連続する体育授業～

【なりたい姿】…1時間ごとの授業の中で目指す姿, 単元の終盤でなっていたい姿のこと

(個人やグループで達成したい明確な姿)

【研究の具体的な視点】

- ① なりたい姿をイメージし, 自他の課題や変容の自覚を促す「単元構成と授業構成」の追求
 - 子どもたちの「できそう」「できた」が連続する単元構成の工夫
 - 子どもの実態をふまえた学習内容(身に付けさせたい力)や系統性を明確にした単元構成, 学習内容の焦点化, 授業構成の計画
 - ・系統的に身に付けさせたい動きを習得していきながら動きのポイントがわかる
- ② なりたい姿に向かう「基礎感覚や基本技能を高めしていくための手立て」の追求
 - 自分も「できそう」という思いがもてる運動の基本となる感覚や技能を養う運動の工夫
 - ・楽しみながら繰り返して行える運動
 - ・スモールステップが意識された活動
- ③ なりたい姿に近づくための「主体的・対話的で深い学び」の追求
 - 課題を持って解決するための学習方法や場の設定の工夫
 - ・自己課題や変容をふり返る手立ての工夫
 - 学習意欲を喚起する工夫
 - かかわりを豊かにし, 思考を深める言語活動の充実
 - ・共通課題となる問いの工夫・児童の困り感から学びにつながる問い・課題を意識した助言や補助